

# ONCC 第 12 期 ～江戸時代にタイムスリップ～

## テーマ：「中之島界限ツアー」

<2024 年 6 月 13 日(木) 晴れ 10:00～12:30>

受講者 22 名+CA2 名 (岸本氏、脇本氏)

集合時間：9:50 場所：京阪・大阪メトロ「天満橋駅」→「川の駅はちけんや」

江戸時代、大坂は「浪華の八百八橋」と呼ばれていました。実際の「橋」の数は？

ガイドさんの案内の元、中之島界限の橋と史跡巡りを楽しみました。(2 班のガイドは上田さんです。)

### 「八軒屋浜」



仁徳天皇の頃、淀川と大和川の合流地を改修し「難波堀江」と呼ばれ古代の国際交流の港の発祥地。平安時代、天満橋と天神橋の間に「渡辺津」と呼ばれ「熊野街道・熊野三山本宮新宮那智」の起点となる。江戸時代は船宿が 8 軒並んでいたことにより、「八軒屋浜」と呼ばれ、伏見と大坂を結ぶ「三十石船」(上り一日、下り半日で運航)の船着場として明治時代まで栄えた。2008 年水の都大阪再生の核となる水上交通の拠点として観光用岸壁船着場として再開されている。※上田さんが唄う「三十石船舟歌」♪伏見下れば淀とはイヤじゃ～♪でツアー出発しました。

(永田屋コンブ店 HP「悠久の歴史伝える八軒屋」参照)



### 「天神橋・橋銘板」

(明治 18 年の淀川大洪水で流失するまで木橋だったが 21 年にドイツ製鉄橋となる)

### 「天満青物市場跡」

大川が育んだ「天満市場」は青物市場として栄え 1653 年に「天下の台所」と呼ばれる由縁の始まり。

「菅原町」に日持ちのする乾物を専門に扱う乾物商たちが店を構えた。

1672 年河村瑞賢が西国回り航路を開拓し北海道の昆布を持ち込み、大坂の「ダシ文化」が生まれる。

### 「北村商店」

1752 年久宝寺屋伝兵衛が乾物仲買「久宝寺屋」が始まり、江戸末期まで乾物問屋として商う。

1888 年菅原町にて分家創業したのが現在の北村商店、第 2 次大戦以後「ゴマの輸入」に力を注ぐ。



「蔵の町」第二次大戦では西天満付近は消失を免れたため古い蔵が現存し、北村商店内にその名残の雁木や川から蔵に上がる階段状構造物がギャラリーとして残されている。「太平橋跡」天満堀川と大川の合流地点堀川にあった太平橋の名残が北村商店敷地内に現存。大阪天満宮銚流斎場に当時の乾物商たちが資金を出し鳥居・石灯籠・石段を整備奉納した。「天神祭（大阪天満宮）」

7月24日宵宮祭、堂島川に神楽歌「銚流歌」の調べとともに神銚を流す「銚流神事」を行う。7月25日日本宮の夜、大川(旧淀川)に多くの船が行きかう船渡御、船同士で「大阪締め」を行う。大阪締めとはお互いを祝いあう手打ち

「打一ちまひょ」パンパン「もひとつせ」パンパン「祝うて三度」パパンパン

※上田さん指導のもと大阪締めを体験しました。

「難波橋（なにわ橋）」 「あ・うんのライオン像」（天岡均一作）



大坂の三大橋（天満・天神・なにわ）公儀橋

公儀橋は12橋でその他は町橋（商人が架けた）八百八橋とは河川・運河に囲まれた地形と橋が多数あるという事で数ではない。



「佐賀藩蔵屋敷跡」（現在は裁判所になっている）

「蔵屋敷」

経済的な機能だけでなく、政治的、社会的、文化的な機能を持ち大坂の都市住民たちと深く関わりがあった。

各藩蔵屋敷地内に神社が祀られて、明治以降現在まで祠は残されて祀られている。



「堂島米市場跡（米粒のオブジェ）」

1730年幕府は正米商（現物市場）と帳合米商（先物取引）を公認、全国の米相場基準となる。日本の取引所の起源とともに世界における組織的な先物取引の先駆として知られる。



### 「淀屋敷跡碑」

淀屋辰五郎五代目は宝永2年、分にすぎた生活をとがめられ全財産没収、所払い闕所処分となる。

闕所前に伯耆国久米倉吉の地に暖簾分けした店を開き、幕末に朝廷に全財産を献上した。（後期淀屋）

### 「適塾（我が国唯一の蘭学塾）」

緒方洪庵が1838（天保9）年に開いた。種痘事業やコレラ治療などの業績がある。



### 「銅座跡」

江戸時代「銅」は重要な輸出品、大坂（住友銅吹所）は銅精錬業の中心地であった。精製された銅は大坂から長崎に送られた。

現在は「大阪市立愛珠幼稚園」（日本で二番目に古い歴史）となっている

### 「懐徳堂跡碑」（大阪大学につながる）

1724年に大阪の商人たちが設立した学問所である。

吉宗 三星屋武右衛門ら町家5人衆 中井愁庵などが設立した。

当時の大坂の学問所

適塾・懐徳堂・合水堂（華岡青洲の弟、華岡鹿城が設立）



当日、お天気も良く日差しも強かったですが、二時間余り、ガイドさんの丁寧な説明を受け、普段見過ごしている史跡に改めて気づかされ、大変有意義な中身のあるツアーでした。

【担当：二班広報】